つぎなにプリント54

「っね・・・の。」

たんこうのおくからまた、だれかの声がした。

ケンタは考えた。このおくに、だれかいる。

ポケットにあらかじめ入れておいたかいちゅうでんとうのスイッチを入れ、ケンタは走りだす。

「カツカツカツ」

と走り出すと、

「カツカツカツ」

とたんこうのおくからも足音が。ケンタは走るのをやめた。

すると、足音もやんだ。

—まさか。

ケンタはさけんだ。

「わっしょい。しょい。」

しばらく耳をかたむけると、

「・・しょい。しょい。」

ケンタはかんぜんにりかいした。音のしょうたいは、